

2019春闘妥結にあたっての見解

J R東労組バス関東本部は、2月25日に申11号「2019年度賃金引き上げ等に関する申し入れ」を行い、基本給一律6,000円の引き上げ（定昇を含まない）、日給制の契約社員B及び臨時雇用員の基本日額一律15,000円（時給制については一律2,000円）にすること、そして定期昇給の実施と3月29日までの回答を求め、全組合員と共にたたかい抜いてきました。改めて物心両面にわたり交渉団を支えてくれた各級機関と全組合員・家族の皆さんに感謝致します。

今春闘で会社は、2019年1月の収支実績が約5億という好業績であるが「当社は人件費が占める割合が43%である」「これまでの諸手当改定等があり人件費が高騰している」「東京支店リニューアルや新車導入促進による減価償却費の増加」を理由に、厳しい交渉姿勢に終始しました。

J Rバス関東本部は、従来の横並び春闘の構築が困難な厳しい春闘情勢が強いられるなかで「2019春のたたかい総決起集会」や分会事務所を活用した「バス本部何でも相談室」の定期開催、そして各分会の総対話行動を開催しながら職場議論を深め、組合員にとって最も重要な各職場環境改善の取り組みを強化してきました。今春闘の特徴点は、昨年より18春闘以降、スト権すら確立していないバス職場に仕掛けられている理不尽極まりない不当労働行為や、組合役員を狙い澄ました強制転勤等に対する組合員の怒りが物質化され、19春闘を全組合員が心をついて臨んだことです。

その職場の物質力を背景にたたかい抜いた結果、会社から①定期昇給の実施、②一律定額ベア300円、③日給制契約社員B・臨時雇用員の日額200円加算、④時給制契約社員B・臨時雇用員の時給20円加算、⑤55歳以上の社員に減額された基本給に一律5,000円加算を確認しました。そして、春闘妥結後速やかに「新制度社員の定期昇給額改訂の実施」「55歳以上の基本給減額制度の見直しに向けた議論の継続」を確認し、回答日である3月29日に席上妥結しました。

私たちは、取り巻く情勢が「ベアだけではなく賃金水準をより重視する」という潮流のなかで、6年連続の一律ベアをはじめ、それぞれの雇用制度に存在する格差や待遇の課題を改善させたことは大きな成果です。

J Rバス関東本部は結成以来、かつて経験したことのない最大の危機を迎えています。それは昨春から続く、会社による不当労働行為が全職場で繰り広げられ、管理者からの執拗な組合脱退を慫慂する言動は日増しにエスカレートし、その常軌を逸した陰湿な手法に組合員と家族は悩み苦しんでいます。さらに、2月中旬から突如として、一部の職場で組合役員や組合員の「異動の意識付け」が始まり、春闘回答指定日の3月29日から転勤の「事前通知」が言い渡されています。その理由は「本人のスキルアップ」や「人事交流」と説明されるのみで詳細は述べられず、職場は混乱状態に陥っています。現在、バス運転士の人材不足が社会問題化するなかで、自己申告書による本人希望や家庭環境が配慮されない異動が実現されると、人材確保と育成にも大きな影響を及ぼし、会社の目指す生産性向上も低下し、地域に根ざしたバス会社からも逸脱します。J Rバス関東本部は、J R東労組組合員を狙い撃ちする強制転勤には断固反対します。労働協約を遵守させ、本人と家族が「納得して異動できる」職場環境を目指してたたかいを強化します。

先輩たちが築き上げた「安全を最優先にした働きがいのある職場風土」をまもり抜くのは労働組合です。J Rバス関東本部は、今こそ全組合員がこの歴史上例のない大弾圧に抗して立ち上がることを要請します。そして理不尽な攻撃には一切屈せずに攻撃の本質を見抜き、引き続き「安全・健康・働きがいと社会に貢献するJ Rバス」を全組合員の手で創りだすことを方針とし、19春闘妥結にあたっての見解とします。

2019年3月29日
東日本旅客鉄道労働組合
J R バ ス 関 東 本 部